

第六時課

來れ、我等の王・神に叩拜せん。

來れ、ハリストス我等の王・神に叩拜俯伏せん。

來れ、ハリストス我等の王と神の前に叩拜俯伏せん。

第53聖詠

神よ、爾の名を以て我を救ひ、爾の力を以て我を判き給へ。神よ、我が禱を聴き、我が口の言を聆き納れ給へ、蓋外人は起ちて我を攻め、強き者は我が靈を覓む、彼等は神を己の前に置かず。視よ、神は我の援助なり、主は我が靈を固め給ふ。彼は我が敵に其惡を報いん、爾の眞實を以て彼等を滅し給へ。主よ、我心を盡して爾に祭を獻げ、爾の名を讃め揚げん、其善なるを以てなり、蓋爾は我を諸の艱難より救ひ給へり、我が目は我の敵を見たり。

第54聖詠

神よ、我が禱を聆き我が願より匿るる母れ。我に耳を傾けて我に聴き給へ、我は悲の中に呻ひ、敵の聲、不虔者の責に由りて擾ふ、蓋彼等は不法を以て我を誣ひ、怒を以て我に仇す。我が心は我の衷に慄き、死の恐惶は我に及べり、驚懼と戦栗とは我に臨み、恐惶は我を圍めり。我言えり、孰か我に鳩の翼を予ふるあらん、我飛び去りて安を獲ん、遠く離れて野に居らん、急ぎて旋風と暴風とを避けん。主よ、彼等を亂し、其の舌を分けよ、蓋我は暴虐と争競とを城邑の中に見る、彼等

は晝夜其の城垣の上を繞る。其中に毒惡と患難あり、殘害は其中にあり、詭詐と誑騙とは其衢を離れず。我を誘る者は敵に非ず、敵ならば我之を忍ばん、我に高ぶる者は我が仇に非ず、仇ならば我之を避けん、乃爾嘗て我と儔しき者、我の友、我の近き者たり、我と親しき談を爲しし者、偕に神の宮に行きし者たり。願はくは死は彼等に至らん、願はくは彼等は生きながら地獄に降らん、惡事は其住所に、其間に在ればなり。惟我神に籲ばん、主乃我を救はん。晩と朝と午に我祈りて籲ばん、彼乃我の聲を聞かん、我が靈を我を攻むる者より平安に脱れしめん、彼等夥しければなり。神は聽かん、世の前より在す者は彼等を卑くせん、蓋彼等に改新なし、彼等は神を畏れず、己の手を彼等と和睦する者に伸べ、己の約に背けり、其口は膏より滑らかにして、其心に仇を懷き、其言は油より柔らかにして、是れ白刃なり。爾の重任を主に負わしめよ、彼は爾を扶けん。彼は何時も義人に撼くを容さざらん。神よ、爾は彼等を滅の阱に陥れん、血を流し、貳を行ふ者は生きて其日の半にも至るを得ず。主よ、惟我爾を頼む。

第90聖詠

至上者の覆いの下に居る者は、全能者の蔭の下に安んず、主に謂う、爾は私の避所、私の防禦、我が頼む所の私の神なりと。彼は爾を獵者の網より、滅亡の疫より脱れしめん、彼は其羽にて爾を覆わん、其翼の下にて爾危からざるを得ん、彼の眞實は楯なり、鎧なり。爾は夜の震驚と晝の流矢、闇冥に行く行疫と正午に暴す瘴疫を懼れざらん。千人爾の側に、萬人爾の右に仆るとも、爾に近づかざらん、爾只目を注ぎて不虔の者の報を見ん、蓋爾謂へり、主は私の恃なりと、爾

至上者しじょうしゃを擇えらびて、爾なんじの避所かくれがと爲なせり。悪あくは爾なんじに臨のぞまず、疫癘うつりやまいは爾なんじの住所すまいに近ちかづかざらん、蓋爾けだしなんじの爲ために其その

の天使てんしに命めいじて、爾なんじの凡およその路みちに爾なんじを護まもらしめん。彼等かれら其手そのてにて爾なんじを抱かかへて、爾なんじの足あしを石いしに蹶つまずかざらしめ

ん。爾なんじ蝮じまむしと毒蛇どくじやとを踐ふみ、獅ししと大蛇だいじやとを踏ふまん。彼我かれわれを愛あいするに因よりて、我われ之これを援たすけん、彼我かれわれの名なを識しるに

因よりて、我われ之これを衛まもらん。我われを呼よばば、我われ彼かれに聽きかん、憂うれいの時とき我われ彼かれと偕ともにし、彼かれを援たすけ、彼かれを榮えいせん、壽考いのちながきを

以もつて彼かれに飽あかしめ、我われの救すくいを彼かれに顯あらわさん。

光榮こうえいは父ちちと子こと聖神せいしんに歸きす、今いまも何時いつも世世よよに、「アミン」。

「アリルイヤ」「アリルイヤ」「アリルイヤ」、神かみよ、光榮こうえいは爾なんじに歸きす。三次

主憐しゅあわれめよ。三次

へカファイズマ省略、月8、火15、水4、木11、金20、第五週は月8、火16、水5、木10、金20

【六時課の讃詞】第二の調。へ楽譜次ページ

司祭 アダムが地堂ちどうにて犯おかしし罪つみを第六日だいろくじつの第六時だいろくじに十字架じゆうじかに釘くぎつけしハリストス神かみよ、我わが罪つみの書券かきつけをも破やぶりて、

我等われらを救すくひ給たまへ。

(詠) 繰り返す
(第一句) 神かみよ、我わが禱いのりを聆きき、我わが願ねがいより匿かくるる母なかれ。

(詠) 繰り返す

トロバリ2調

アダムが 地堂ちどうにて おかしし つみを
第六日だいろくじつの 第六時だいろくじに 十字架じゆうじかに 釘くぎ付けし ハリストス かみよ
我が罪の 書きつけをも やぶりて 我等を 救いたま え

(第二句) 我神に籲ばん、主乃我を救はん、

(詠) 繰り返す (歌ふ毎に我等一次伏拜す)

司祭 光榮は父と子と聖神に歸す。

誦經 今も何時も世世に、「アミン」。

生神・童貞女よ、我等 夥しき罪ありて、己に勇なきに因りて、爾より生れし者に祈り給へ、蓋母の禱は多く主宰の慈憐を得べし、至淨の者よ、罪人の祈を棄つる勿れ、我等の爲に甘んじて苦を受け給ひし者は仁慈にして人を救ふことを能すればなり。

日替わり 三歌齋經

齋4

預言書の読み (受難週はイエゼキイリの預言書、使徒經、福音經)

誦経 主よ、願はくは爾の慈憐は速に我等を迎へん、我等甚衰へたればなり、神我等の救世主よ、爾の名の光榮に因りて我等を助け給へ、爾の名に因りて我等を救ひ、我等の罪を浄め給へ。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

至聖三者よ、我等を憐め、主よ、我等の罪を潔くせよ、主宰よ、我等の愆を赦せ、聖なる者よ、臨みて我等の病を癒し給へ、悉く爾の名に因る。

主憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

天に在す我等の父よ、願はくは爾の名は聖とせられ、爾の國は來り、爾の旨は天に行はるるが如く地にも行はれん、我が日用の糧を今日我等に與へ給へ、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給へ、我等を誘に導かず、猶我等を凶悪より救ひ給へ。

司祭 蓋國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に。

誦経 「アミン」。

トロパリ、第二の調、

ハリストス神よ、爾は地の中に救を施し、爾が至淨の手を十字架に伸べて、主よ、光榮は爾に歸すと呼ぶ萬民を集め給へり。

光榮は父と子と聖神に歸す、

仁慈なるハリストス神よ、我等爾の至淨なる聖像に伏拜して、我が諸罪の赦を求む、蓋爾は其造りし者を敵の奴隸より救はん爲に、甘じて身にて十字架に升起給へり。故に我等感謝して爾に呼ぶ、世界を救はん爲に來りし我が救世主よ、爾は衆人を欣喜に満て給へり。

今も何時も世世に、「アミン」。

慈憐の泉なる生神女よ、我等に憐を垂れ、罪なる人人を顧みて、恒の如く爾の力を顯し給へ。蓋我等は爾を待み、天軍首ガウリイルに倣ひて爾に呼ぶ、慶べよ。

主憐めよ。十二次(本来は廿次)

何の日何の時に、天にも地にも叩拜讚榮せられ、寛忍、鴻慈、至善にして、義人を愛し、罪人を憐み、來世の福を約して、萬の者を救に招くハリストス神よ、爾主よ、親ら我が此の時の禱をも受け、我等の生命を爾の誠に向はしめ給へ、

我等の靈を聖にし、體を潔くし、慮を直くし、思を淨くし、我等を悉くの憂と禍と疾より救ひ、爾の聖なる天使を以て我等を環り、我等が其圍に衛り導かれて、信の一なると爾の近づき難き光榮を悟るに至らせ給へ、蓋爾は世世に崇め讃めらる、「アミン」。

主憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

ヘルワイムより尊く、セラフィムに並なく榮え、貞操を壞らずして神言を生みし實の生神女たる爾を崇め讃む。

神父よ、主の名を以て福を降せ。

司祭 神よ、我等に恩を被らせ、我等に福を降し、爾が顔を以て我等を照し、並に我等を憐み給へ。

誦経 「アミン」。

【聖エフレムの祝文】

司祭 主吾が生命の主宰よ、怠惰と、愁悶と、陵駕と、空談の情を我に與ふる勿れ。叩拜一次

貞操と、謙遜と、忍耐と、愛の情を我爾の僕に與へ給へ。叩拜一次

嗚呼主王よ、我に我が罪を見、我が兄弟を議せざるを賜へ、蓋爾は世世に崇め讃めらる、「アミン」。叩拜一次

又躬拜すること三次、每次黙誦して曰く、

神よ、我罪人を淨め給へ。

後再全文を誦す、

主吾が生命の主宰よ、怠惰と、愁悶と、陵駕と、空談の情を我に與ふる勿れ。貞操と、謙遜と、忍耐と、愛の情を我爾の僕に與へ給へ。嗚呼主王よ、我に我が罪を見、我が兄弟を議せざるを賜へ、蓋爾は世世に崇め讃めらる、「アミン」。叩拜
一次

誦經【祝文】

神、天軍の主、萬物の造成者、爾が量り難き仁愛、慈憐を以て我が族を救はん爲に、爾の獨生子吾が主イイススハリストスを遣し、其貴き十字架にて我等の罪の書券を破り、又是を以て闇冥の首領と權柄とに勝ちし至仁なる主宰よ、我等罪なる者の此の感謝と祈願との禱を納れて、諸害を爲す暗き罪、及び凡そ我等を殘はんと欲する見ゆる又見えざる諸敵より我等を救ひ給へ。我が體を爾を畏るる畏に釘うち給へ、我が心を邪なる言或は思に傾かしむる勿れ、乃爾を愛する愛を以て我等の靈を刺して、我等に常に爾を仰ぎ、爾よりする光に導かれて、爾近づき難き永存の光を望み、爾無原の父、爾の獨生子、及び至聖至仁生を施す神に斷えず讚詠と感謝とを奉らしめ給へ、今も何時も世世に、「アミン」。